


進歩した乳がん骨転移の治療



がんが肺や肝臓などに転移することはよく知られていますが、骨にもしばしば転移することは案外知られていないようです。なかでも乳がんは骨転移を起こしやすい代表的ながんであり、遠隔臓器(乳腺から離れた臓器)への転移として、骨は最も頻度の高い部位です。

骨転移が生じると骨が破壊されてもろくなるので、腰痛など骨の痛みを感じたり、さらに進行すると骨折しやすくなったり、脊椎に転移すると脊髄を圧迫して手足の麻痺症状が出ることもすらあります。そのため、乳がん術後骨転移が見つかった場合には、乳がんの治療と並行して、骨転移進行のコントロールも考慮せねばなりません。

すなわち、乳がん骨転移での治療は、①乳がん自体に対する治療、②骨転移の進行を抑える治療、③症状を緩和する治療、に分けて考える必要があります。

【乳がん自体に対する治療】

ホルモン療法(内分泌療法)、抗がん剤治療(化学療法)、分子標的治療、などがあり、それぞれの乳がんのタイプに見合った治療薬が選択されます。たとえ骨転移単独の再発であっても、こうした薬物での治療が治療の中心です。

【骨転移の進行を抑える治療】

骨を破壊する破骨細胞という細胞の働きを抑える治療薬として、ゾレドロン酸(ゾメタ)とデノスマブ(ランマーク)があります。骨の破壊を抑えて、痛みなどの症状を軽くし、骨折の危険性を減らす効果があります。ただ、こうした薬で副作用として起こりうる「顎骨壊死(がっこつえし)」には注意が必要です。ゾメタやランマークでの治療を受ける前には歯科を受診して口腔内の健康状態を確認しておいてください。治療中には抜歯などはできませんので、歯科受診時にはこうした薬剤の投与を受けていることを必ず歯科医に伝えてください。また、ランマークでの治療中は血液中のカルシウムが低下することがありますので、カルシウムとビタミンDの内服が必要です。

【症状を緩和する治療】

骨の痛みなどの症状を抑えるために、放射線療法や鎮痛薬もしばしば用いられます。また、放射線療法の一つになりますが、ストロンチウム(メタストロン)という放射性物質を静脈から注射する方法もあります。骨折、脊髄圧迫などで緊急に手術を必要とすることもまれに起こります。

乳がんの治療を続けながら、骨転移を少しでもうまくコントロールしながら、よりQOL(クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)の高い日常生活を送りましょう。

詳細は乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。



KAZUKA

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

